

# 「震災と地域再生」

担当教員名 西城戸 誠 横内 恵

## コース概要

日程	2018年9月5日～8日
場所	宮城県石巻市
参加人数	24名

## コースのねらい

津波被災地である石巻市の市街地と半島部の双方を訪問し、震災からの地域再生、復興の現状と今後の課題についての理解を深める。

## 内容

### \*本フィールドスタディの経緯と目的

2011年3月に発生した東日本大震災による津波によって、宮城県石巻市は大きな被害を受けました。法政大学人間環境学部では、震災直後からNPO法人パルシックと協働して、石巻市市街地や北上町における震災ボランティアを実施してきました。2016年度からは、石巻市を舞台として、震災復興の現場と地域再生にかかわるさまざまな試みを訪問し、また地域住民から、復興の現在の話を伺うことで、「復興とは何か」「復興支援とは何か」を考えていくプログラムを開始しました。本年度は特に「震災をどのように伝えるのか」というテーマを含めて、震災後の地域再生を考えていきます。

### \*行程について

1日目：石巻駅前に集合した後、公益社団法人・みらいサポート石巻のプログラムに参加しました。まず、南浜つなぐ館に行き、石巻市街地の津波被害の全体像を把握した後、震災語り部の方（参加学生と同世代の若い語り部）から震災当時の様子について歩きながら話を伺いました。午後は、「防災まちあるき」のプログラムに参加し、震災直後の写真などを記録したタブレットを持ちながら、震災前後の町並みの変化を理解しました。続いて「安心安全の街づくりを目指した地域の取組」として、料理店で震災が起きた時の対応やその後の避難訓練についてのお話を伺いました。



タブレットを使って  
石巻市街地を歩く



南浜つなぐ館で津波被災  
の状況を学ぶ



語り部の方と被災地を歩く



みらいサポート石巻の  
活動のレクチャー

2日目：NPO法人みらいサポート石巻の方から石巻市を中心とした復興支援の過程について伺い、みらいサポート石巻による支援活動と、東日本大震災における支援活動と国際協力支援や熊本地震に対する支援と比較しながら、震災支援のあり方を考えました。また、ピースポートセンターいしのみまきの方から、漁業支援プロジェクト「イマココプロジェクト」の説明を受けました。午後は、実際に東日本大震災における体験談を元にして作られた防災ワークショップに参加し、ゲーム形式で震災が起きた時の対応に関してグループ別で学びました。また、この2日間を通して、津波被災者の記憶をどのように伝えていくべきか、震災伝承のあり方を考えることになりました。

その後、北上町に移動し、宿泊先の追分温泉での豪華な夕食後、追分温泉のご主人から震災当初から、現在に至るまでの経緯と、震災後の観光のあり方に関するレクチャーを受けました。

3日目：午前中は、まず津波で多くの方がなくなった大川小学校を訪問、お子さんを亡くされた語り部の方から、大川小学校での被災状況などについてお話を伺いました。続いて復興まちづくり情報交流館北上館で集団高台移転地におけるまちづくりの活動を担ってきた鈴木昭子さん、川のビジターセンターで、北上で育児中の武山喜子さんからの話を伺いました。午後からは、北上町でまちづくり活動を行っているウィアーワン北上、イシノマキファーム、川のビジターセンターの方との特セッション、東日本大震災時に北上中学校3年生で、現在は北上町の震災を研究をしている大学院生の佐々木薫子さんの話、震災後の漁業復興について佐藤清吾さんからお話を伺いました。夜はできたばかりの白浜ビーチパークで地元の方と一緒にバーベキューを行い、お話と伺いながら交流を深めました。



大川小学校で語り部の方から  
の話を伺う



震災時に中学校3年生だった方  
から当時の話を伺う



震災伝承を考えるワークショップでの発表

4日目：午前中は3日間のフィールドスタディの振り返りを行い、震災を知らない世代にどのように震災伝承を行うべきかという点をグループ別に分かれて発表をしました。以上の4日間のフィールドスタディによって、私たちは、震災を伝えることや復興支援の意義と課題、さらに震災後の地域再生のための課題について、さまざまな観点から考えることになりました。

## 学習を終えて

私は、石巻FSの四日間を通し震災や石巻についてたくさんのことを学び、考え、充実した時間を過ごすことができました。実際に石巻に行き、私が一番驚いたことは石巻の人々の明るさと強さです。東日本大震災が起こった七年半前に、津波により壮絶で辛い経験をした方々と思えないほど明るく、目標に向かって前向きに進んでいたからです。そういった方々の被災経験談、行ってきた取り組み、これから目指していることを聞くことができ、自分自身も震災についてもっと考え向き合いたいと自然に思うことができました。私は、このFSを通して、震災は過去のことでなく、いつ自分の周りに起こってもおかしくない身近な問題だと改めて認識し、家族ともう一度話し合うきっかけになりました。(2年・橋本緑子)

私は今回の石巻FSで実際に自分で石巻の現状を確かめ、現地の方々から直接お話を伺えたことで文献では知ることができない経験、記憶があることを知ることができました。石巻は当時の被災の状況や復旧の過程だけでなく、そこにあった景観、暮らし、文化、そして命があったことを伝承していました。私は佐藤さんの「大川小学校には命、救ってほしかった命、救えた命、救えなかった命がある。」という言葉が忘れられません。また石巻の方々の「この地域の魅力を伝えたい、知ってほしい。」という思いが強く、被災地で活動する人々は被災者でありながら支援者であることを学びました。石巻FSは本当の復興とはなにかを考える貴重な経験になりました。(2年・平出花衣)